



いざというとき、慌てないために

9月7日、達磨寺・向新田地区を会場に、豪雨による水害を想定した町の総合防災訓練が行われました。

今年8月の豪雨により広島県で発生した土砂災害や、京都府北部での洪水被害を受け、参加者は身近に起こりうる脅威への対応を実践的に確認し、防災に対する意識を高めました。



町総合防災訓練

in 達磨寺・向新田

訓練は、「村山地方を中心に局地的な大雨に見舞われた」という設定で、「河川の増水、主要道路の冠水、河川の濁度上昇による断水」などの被害を想定して実施。午前8時40分、災害を知らせるサイレンの音を合図に、町、消防団、自主防災会、地区住民が一体となって訓練を開始しました。

参加者は、避難場所に指定されている地区の施設を目指して一斉に避難。子どもや高齢者には手を貸すなど、互いに助け合う様子が見られました。また、自主防災会役員と地元消防団員は、協力して一人暮らしの高齢者や自分で避難することが困難な「災害時要援護者」を戸別訪問して安否を確認するなど、本番を意識

した訓練に取り組んでいました。避難完了後は、町消防団による放水訓練が行われたほか、参加者自身も消火器を使った初期消火訓練を体験したり、AEDを用いた心肺蘇生法を学ぶなど、いざという時に役立つ知識を身につけました。

また、河川の増水や断水に備え、町消防団員による土のう積み訓練、最上川中部水道企業団による応急給水訓練なども合わせて行われました。万が一の事態が発生したときに役立つのがこうした訓練です。皆さんも、ご家庭で非常用持ち出し袋などを用意したり、地元の防災訓練や研修会に積極的に参加するなど、日ごろからできる対策をし、非常時に備えましょう。



達磨寺・向新田自主防災会
会長 井上正彦さん

達磨寺・向新田地区は須川が近くにあるので、各地で発生している豪雨被害は決して他人ごとではないと感じています。

地区住民の皆さんにも、この防災訓練を通じて災害時にとるべき行動を確認していただき、いざというとき慌てることなく、適切な行動をとっていただきたいと思います。

宝

くじの助成事業で
向新田町内会が公民館の
備品整備を行いました

宝くじの社会貢献事業の一つであるコミュニティ助成事業の助成金を活用し、向新田地区が長テーブルや食器棚など、公民館の備品の整備を行いました。向新田地区区長の高橋保雄さんは、「新しい備品を使って様々な活動ができることに喜びを感じています。今回の備品整備により、公民館の利用が増え、地区の皆さんの交流がさらに深まることを期待します」と話し、地域活動の活性化に期待を寄せていました。

※お問い合わせ先

総務企画課企画財政G ☎6621-4271



①人形を用いた応急手当訓練。町消防団女性消防隊員の指導でAEDの使用方法や心肺蘇生法を学びました。②河川の増水に備えた町消防団による土のう積み訓練。③訓練終了後は非常食が配付されました。

